

就農促進の優良事例

三重県伊勢市における就農促進の取組

1 地域の概要

伊勢市（旧伊勢市・二見町・小俣町・御園村）は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置し、北は伊勢湾に面し、中央に宮川、五十鈴川、勢田川が流れ、比較的温暖な気候である。



2 取組の契機

伊勢市では、H30 に第 2 次伊勢市農村振興基本計画を策定、R5 に中間改定し、少子高齢化や人口減少が進行する中で、なりわいとなる農業と魅力ある農村が継承されていくことを将来像としている。

同市では、青ねぎ・いちごが主要品目であるが、農業者の高齢化、後継者不足が重要な課題となっていた。

JA 伊勢では、新規就農者の育成と産地の農業生産の減少に歯止めをかけるため、H24 に JA 出資型法人（100%出資子会社）の㈱あぐりん伊勢（同市小俣町）を設立し、青ねぎ・いちごで独立就農を目指す者を社員として雇用して、雇用就農資金（旧農の雇用事業）を活用しながら、長期研修、新規就農、就農後の定着まで一貫した支援をしている。



㈱あぐりん伊勢

3 過去の新規就農の実績

（株）あぐりん伊勢での研修後の新規就農の実績は、次のとおり。
長期研修は、青ねぎが H24、いちごが H31 から開始。

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	H24～R5 計
青ねぎ	0	0	0	7
いちご	4	1	2	7

※ 1 H24～R5 年度の県外からの新規就農者は 2 人。

※ 2 青ねぎは、販売量に生産量が追いついていないため積極的に募集していない。

4 就農促進の体制整備

伊勢市が全体的な管理・推進を行いながら、関係機関と連携し、随時、新規就農希望者の相談を受け付け、受入から定着まで、きめ細かなサポートをしている。

各機関の役割分担は、以下のとおり。

①募集、就農相談、面談（JA・㈱あぐりん伊勢、市農林水産課、県普及センター）

②研修受入（JA・㈱あぐりん伊勢、県普及センター）

- ③住居の相談・斡旋（市住宅政策課）
- ④農地・施設の確保支援（JA・㈱あぐりん伊勢、市農業委員会）
- ⑤国県の助成、農業施設・機械の導入支援
（市農林水産課、県農政室、JA・㈱あぐりん伊勢）
- ⑥農業制度資金の相談・支援（JA・㈱あぐりん伊勢、市農林水産課、県普及センター）
- ⑦青年等就農計画の作成支援（市農林水産課、県普及センター、JA・㈱あぐりん伊勢）
- ⑧農作物技術・経営指導（JA・㈱あぐりん伊勢、県普及センター）
- ⑨販路の相談・支援（JA）

5 受入から就農までの流れ

（1）社員（研修）の募集・受入

①情報発信、就農相談、就農体験

JA 伊勢の HP・広報誌「あんさんぶる」で募集。

伊勢市が、就農フェア（津市）でブース出展。

㈱あぐりん伊勢において、1 日～1 週間程度の就農体験を随時実施。

②面接・採用

JA・㈱あぐりん伊勢において、面接で農業への思いや人間性を確認して採用。

社員（研修）は、20 代～40 代。

【求める人物像】

- ・PDCA サイクルを自分の判断で実現することができる人
- ・失敗が起こる前に早めに察知できる、リスク回避能力がある人
- ・何が無駄で何が必要か、費用対効果に敏感な人

（2）技術習得支援・就農準備支援

③長期研修の実施

㈱あぐりん伊勢において、青ねぎ・いちごで独立就農を目指す者を社員として雇用し、雇用就農資金（旧農の雇用事業）を活用して、2 年間程度、給与等を支給しながら長期研修を実施。

「やってみる」ことが成功への一番の近道との考えから OJT を基本とした実践研修や、月 1 回、県普及センター等を交えて栽培管理・農業経営の知識習得のため座学研修を実施。

また、㈱あぐりん伊勢の卒業生等のもとの農業研修、懇親会、部会行事の参加などにより、先輩農業者とのコミュニケーション、農業の仲間づくりを促進。



研修（青ねぎ定植作業）の様子

④研修農場の整備

㈱あぐりん伊勢では、R4 年度に国のサポート体制構築事業を活用し、いちごの研修農場を整備。

研修修了生が新規就農する際には、研修修了生に当該研修農場を貸し付ける予定。



補助事業で整備したいちご研修農場

⑤就農準備への支援

JA・(株)あぐりん伊勢が、農地、施設（空き・貸し・新規）及び農業機械の確保、市・県が青年等就農計画の作成などを支援。

（３）新規就農者の定着促進

⑥地域での定着サポート

新規就農者は、JA 伊勢の「青ねぎ部会」、「いちご部会」へ加入し、JA が販路を確保。

地域には、身近に(株)あぐりん伊勢の卒業生、部会員がおり、JA の営農指導員、県普及センターが全面的にサポート。

また、部会の活動として研修会を実施。

伊勢市では、認定新規就農者が農業経営を早期安定化するために、農業機械・施設等を購入する費用の一部を補助（伊勢市新規就農者支援事業補助金、1/2 以内、上限 100 万円）。

6 主な品目、経営モデル、栽培技術

（１）主な品目

①青ねぎ

温暖な気候を活かして、周年栽培。

「ねぎらいねぎ」、「伊勢っ娘ねぎ」等としてブランド化。



②いちご

三重県で育成開発された「かおり野」、「章姫」等の品種を栽培。



（２）経営モデル

伊勢市での青ねぎ、いちご栽培で生活が成り立つことを示すため、㈱めぐりん伊勢において、面談時に、新規就農者の実例をもとに、年間スケジュールや労働時間、経営モデル（売上、経費、施設・機械の減価償却費、農業所得）を提示している。

また、「伊勢市農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」において、同市等の優良事例をもとに、経営規模、資本装備、農業所得等の農業経営の指標を公開している。

（３）栽培技術

①青ねぎ

収穫作業を除き、定植機、ブームスプレー等を活用した機械化体系ができており、JA 伊勢の育苗ハウス・農業機械のレンタル事業、パッケージセンターでの共同選別・包装により農業者の経営規模拡大と生産コスト低減を推進。

②いちご

ハウスに高設栽培システム、環境制御装置、炭酸ガス発生機等を導入し、新規就農者の栽培管理をサポートするとともに、単収と品質を向上。

R2 に伊勢いちごスマート農業研究会を設立し、ハウス環境データや生育データに基づく栽培管理により、栽培技術の高位平準化、単収のさらなる向上、匠の技術の伝承を促進。

さらに、炭酸ガス発生機、循環扇、換気扇、灌水装置を制御する低コスト統合環境制御装置について、地元教育機関・民間企業と開発・実証。

R5 からは、夏期の収入確保を目指し、夏秋いちごを栽培・出荷。